１年国語科　学習指導案

授業者　廿樂裕貴

１　単元の概要

単元名　**「言葉が物語を連れてくる～クラス短編集をつくろう～」**

言葉と言葉を組み合わせて題材を設定する田丸式メソッドを用いて、言葉の相乗効果から創造性を発揮し、オリジナルな物語を創作する。構想を広げる際には、創作の手引きを使い、個に応じて作りたい物語が作れるように指導する。創作した作品は学級ごとに文集にする。活動を通して、夢中で創作にふける人を育てたい。

	目標	評価の具体	評価資料
知識 技能	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し、使うことができる。【(1)オ】	・伝えたいことを印象付けたり、強調したりするために、複数の表現技法を使い、その意図を解説している。	・清書データ （記述とコメント）
思考 判断 表現	・目的に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。【Bア】 ・表現の効果を考えて描写し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。【中2Bウ】 ・表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すことができる。【中2Bオ】	・言葉と言葉を組み合わせて題材を設定するとともに、物語の内容について構想を広げている。 ・伝えたいことを印象付けたり、強調したりするために、情景や行動を描写し、その意図を解説している。 ・感想を踏まえて、物語の展開や描写、表現技法の効果について着目し、次の記述の機会に向けて自分の文章のよい点と改善点を具体的に記述している。	・ワークシート ・ノート ・清書データ （記述とコメント） ・ノート
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。	・友人の意見を聞いたり、物語の表現の仕方を調べたりしながら、表現を工夫しようとしている。	・下書きデータ ・リフレクションシート

２　単元の展開

単元の流れ（全５時間）

１	・モデル文を3編読む。 「花すくい」田丸雅智「クレオパトラと雲梯」小川洋子 「じゃれてくる手帳」授業者 ・単元の見通しをもつ。 ・田丸式メソッドで題材をつくる。
２	・創作の手引きを用いて、構想を練る。
３ ４	・下書きを書く。（物語は2000字以内とする。） ・下書きを交流し、推敲後、清書を提出する。
文集を作成する。	
５	・物語の内容や表現の仕方に着目して、他の作品を読み、感想を書き、交流する。（参会者にも作品を割り当て、感想を書いてもらう。「感想のプレゼント」） ・自分の物語のよい点と改善点を見出す。

本時（５／５時）の流れ

本時の目標：読み手からの感想を踏まえて、自分の物語のよい点と改善点を見出そう。

1. 本時の学習活動の目標と進め方を知る。田丸さん動画で登場。（5分）
2. グループのメンバーの作品を読み、内容や表現の仕方について、感想（「ここが魅力的！」「作者に聞いてみたいこと」「もっと、ここ、書いてほしかった！」など）を書く。（15分）
3. お互いの感想を交流する。一般参会者からも感想のプレゼントをもらう。（10分）
4. 作者として、自分の物語のよい点と改善点を見出す。（5分）
5. 代表者が自分の物語のよい点と改善点を発表し、物語の内容や表現の仕方について全体で共有する。（10分）
6. 本単元の振り返りをリフレクションシートに書く。（5分）

３　本単元にかかわる学習活動の流れ

単元名	主な学習活動	付けたい力
①どの結末がお好き？ （１時間）	・結末を選べる短編集「羊飼いの指輪」ロダーリの２編を読み、多様な結末や、物語を結ぶコツをつかむ。	・文章を比較し、展開について考える（中2Cエ）
②お茶中心情描写辞典をつくろう （１時間）	・好きな小説を持参し、感情に合う描写を探し、スプレッドシートにまとめる。（創作時に活用）（喜・怒・哀・楽・驚・嫌・恐・安）	・心情について描写を基に捉える（Cイ）
③徹底考察「星の花が降るころに」 （３時間）	・教科書教材「星の花が降るころに」を読み、物語の構成や表現のしかけ（回想、象徴、道具、キャラクター設定、伏線など）を分析、考察する。	・事象を表す語句の量を増す（(1)ウ） ・場面と場面を結び付け、解釈する（Cウ） ・表現の効果について考える（Cエ）
④言葉が物語を連れてくる （５時間）	・言葉と言葉を組み合わせて、物語の題材を設定する。 ・表現を工夫して自分の物語を創作する。 ・短編集を読み合い、他の文章のよい点を探す。 ・自分の作品のよい点・改善点を見出す。	・表現技法を理解し使う（(1)オ） ・題材を設定する（Bア） ・描写などを工夫する（中2Bウ） ・読み手の助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出す（中2Bオ）

4　本単元で引き出される、創造的思考の習慣

創造的思考のプロセス（試行錯誤と創意工夫）		創造的思考の習慣（赤字はキーワード）
思いや問題に気づく	●アイデアの条件、アイデアを生み出す方法、道具を確認する。 ●観察、分析する。感じる、驚く、受け止める、疑問を感じる。 ●自分ごととしてとらえて思いをふくらませる。 ●他者の視点から想像（共感）する。 ●関連する分野・領域の知識・技能、経験を想起し、アイデアを生み出す際に活用する。	● **言葉と言葉の組み合わせ**から、日常生活にない物やシチュエーションを生み出す ● **違和感**をおもしろがる ● 今までの**読書経験**を思い出す ● **物語らしい文章**を思い描く
アイデアを思い描く【拡散的思考】	●常識にとらわれ過ぎずに、奇抜で斬新なイメージやアイデアを広げ、楽しむ。 ●他の分野、領域の知識・技能、経験や、多様な情報を統合し、新たな意味を生み出す。	● 題材が生きる**物語の設定**をあれこれ考える ● 思いついた考えを**一度**受け入れてみる ● 物語（出来事）を語る**視点**を意識する（一人称視点・三人称視点） ● **キャラクター**に役割をもたせてみる
アイデアを実行する【収束的思考】	●より意味や価値のあるアイデアを選択する。 ●より新規性や有用性のあるアイデアを吟味する。 ●選択・吟味したアイデアを具体的に構想、試作・試行する。	● 文体や構成に注意して**物語の表現様式（会話文・地の文）**で書く ● **景情一致**を目指して描写する ● 意味のある**伏線**をさりげなく張る ● 物語のクライマックスや結末に向けて、出来事の**因果関係**をつなげて配列する
アイデアを振り返る【メタ認知】	●アイデアが意図したとおりに機能しているか確かめる。 ●他の（人の）アイデアの長所と短所を特定し、良さを認め合ったり助言し合ったりする。	● 自分が**伝えたいこと**と、読者に**伝わること**の違いを理解する ● 他の**物語の良さ**を見つける ● 言葉の選び方によって変わる**印象の違い**に気づく

【補足】田丸式メソッド　ワークシート①（第1時で使用）

ワークシート① 名詞を探す／名詞から思いつくものを書いてみる

①下の例を見ながら、いろいろな名詞を20個探して書いてください。
②その中から1つだけ名詞を選んで○をつけ、その名詞から思いつくことを自由に10個書いてください。

②

名詞から思いつくことを書いてみよう

①

名詞を探して書いてみよう	

※①と②の順番に注意してください!

※ここは後ほど使うので何も書かなくてOKです。

例：太陽で思いつくこと

発電に使える
マグマみたい
皆既日食（かいきにっしょく）
ぼかぼかする
夕焼け

例：

ガラス	腕
粘土	タコ
太陽	水筒
冷蔵庫	傘
たんす	鏡

言葉と言葉を組み合わせて、日常にはない「不思議な言葉」を生み出し、物語の題材にするという田丸式の方法は、言葉の相乗効果や発想のコツを知ることができ、子どもたちの題材設定の苦労を乗り越えさせてくれると考えた。

©田丸雅智

【補足】田丸式メソッド　ワークシート②（今回は使用しない）

ワークシート②　不思議な言葉から想像を広げよう

◆選んだ言葉

◆それは、どんなモノですか？　説明してください。空いたスペースにイラストで描いてもOKです

(8分)

◆それは、どこで、どんなときに、
どんな良いことがありますか？

◆それは、どこで、どんなときに、どんな悪いこと、
または左で書いたこと以外のどんなことがありますか？

◆上に書いたことをまとめてください。（出たもの全部を使わなくてもOKです）

(20分)

題名：

以前ワークシート②を改良したものを用いて物語創作をしたところ、オチがなくてはならないという誤解、登場人物や語り手の設定の不十分さなどが一部の作品に見られた（田丸氏はオチがなくてもよいといっている）。ワークシート②が機能した作品もたくさんあったものの、当方の授業においては、生み出した題材の幅の広さに応じきることができなかった。

©田丸雅智

【補足】創作の手引き　設定編（表）（第2時で使用）

言葉が物語を連れてくる　～創作のてびき①～

氏名（　　）

ア　なんだか、こんな物語がはじまりそう。

良いことが起きそう…／とんでもないことが起きそう…／怖いことが起きそう…

美しい話になりそう…／愉快な話になりそう…／切ない話になりそう…

イ　このシーンなんだ。私が一番書きたいのは。

ウ　主人公はこんな……

エ　幕開けは、こんな風に

オ　語り手は、誰にしよう。

カ　物語の幕は、こうやって下ろす。

キ　そうだ、舞台はここにしよう。

ク　季節は〇〇がよさそうだ。時代は……

ケ　主人公の相手として、こんな人を加えようか。

コ　大事な小道具（キーワード、狂言回し、象徴）は

・教師の指示文ではなく、書き手が自問自答するような口調にすることで、書き手自身の気づきをもたらし、創作者としての主体性を確保したい。
・おもしろさだけで書き始める人、設定を確かにしてから書きたい人など、個人差に応じて書けるようにする。書けると思った時に書き始める。物語を生む自由をもっていることを味わわせたい。
・テストの選択肢のように順々に取り掛かるのではない。使いたいものを自分で選ぶ。使わない自由も認める。大村はまの羅列型てびきを参考にした。

【補足】創作の手引き　設定編（裏）（第2時で使用）

言葉が物語を連れてくる　～創作のてびき①～

氏名（　　）

イ　このシーンなんだ。
　私が一番書きたいのは。

ア　なんだか、こんな物語がはじまりそう。
良いことが起きそう…／とんでもないことが起きそう…／怖いことが起きそう…
美しい話になりそう…／愉快な話になりそう…／切ない話になりそう…

ウ　主人公はこんな……

オ　語り手は、誰にしよう。

エ　幕開けは、こんな風に

ク　季節は〇〇がよさそうだ。時代は……

カ　物語の幕は、こうやって下ろす。

キ　そうだ、舞台はここにしよう。

コ　大事な小道具（キーワード、象徴、狂言回し）はこれ。

ケ　主人公の相手として、こんな人を加えようか。

自由に発想を広げたい人用に、パッチワークのようなてびきを作成し、裏に印刷した。内容は表と同じ。配置に工夫を加えただけである。

【補足】創作の手引き　記述編（第3時で使用）

○ディテールにこだわって物語を書こう～God is in the details～

イ　主人公は……

どんな顔、どんな声、どんな目つき、口癖は、年齢は、性格は、どんな服を着ている？

ロ　どうしても、登場人物に言わせたい台詞があるんだ。

ハ　結末につながる伏線を張ってみたい。それもさりげなく。

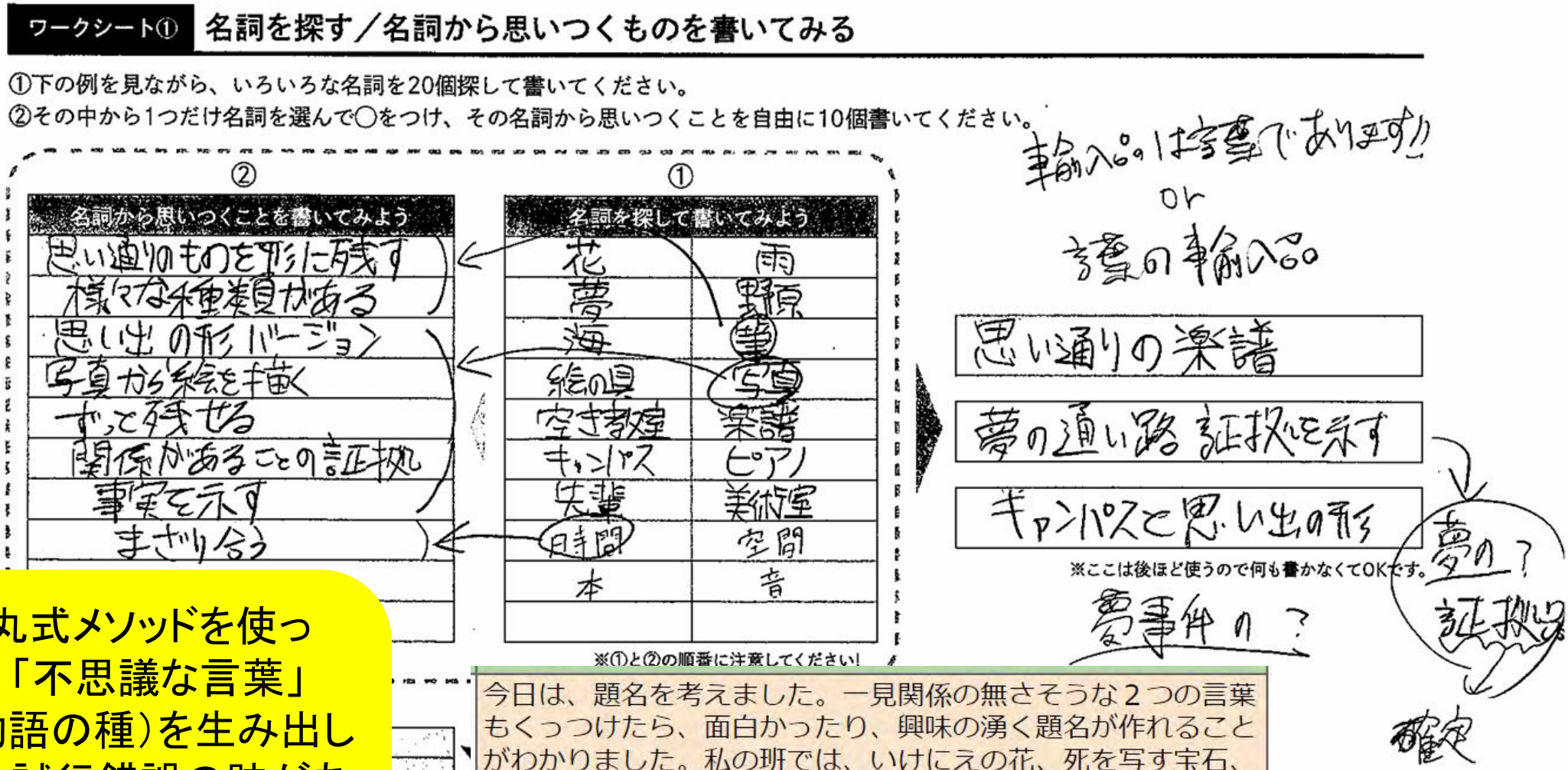
ニ　クライマックスに光を当てるために、このシーンが必要なんだ。

ホ　主人公をこんな光景の中に立たせたい。

ヘ　表現の工夫をそっとしてみよう。誰か気付いてくれるかな。

下書きの際に、傍らに置く手引きとして用意した。記述の邪魔をしないよう、設定に比べて量を減らした。

生徒の記述の実際（第１時） 物語の題材をつくる。



ワークシート① 名詞を探す／名詞から思いつくものを書いてみる

①下の例を見ながら、いろいろな名詞を20個探して書いてください。
②その中から1つだけ名詞を選んで○をつけ、その名詞から思いつくことを自由に10個書いてください。

② 名詞から思いつくことを書いてみよう	① 名詞を探して書いてみよう	
思い通りのものを形に残す	花	雨
様々な種類がある	夢	野原
思い出の形バージョン	海	筆
写真から絵を描く	絵の具	写真
ずっと残せる	空き教室	楽譜
関係があることの証拠	キャンパス	ピアノ
事実を示す	先輩	美術室
まざり合う	時間	空間
	本	音

※①と②の順番に注意してください！

輸入品は言葉であります!!
or
言葉の輸入品

思い通りの楽譜

夢の通い路 証拠を示す

キャンパスと思い出の形

※ここは後ほど使うので何も書かなくてOKです。

夢の？ 証拠品

夢事件の？

確定

今日は、題名を考えました。一見関係の無さそうな２つの言葉もくっつけたら、面白かったり、興味の湧く題名が作れることがわかりました。私の班では、いけにえの花、死を写す宝石、海で働く手さげ袋など、めっちゃ気になる題名がたくさんありました。他にある本でこの方法が使われているか調べてみると（例）・「母が松茸だったころ」中島京子作⇒母と松茸・「かがみの孤城」辻村深月作⇒鏡と孤城・「ザリガニの鳴くところ」ディーリア・オーエンズ作⇒ザリガニと鳴く・「千年図書館」北山 猛邦作⇒千年と図書館

第１時の振り返り

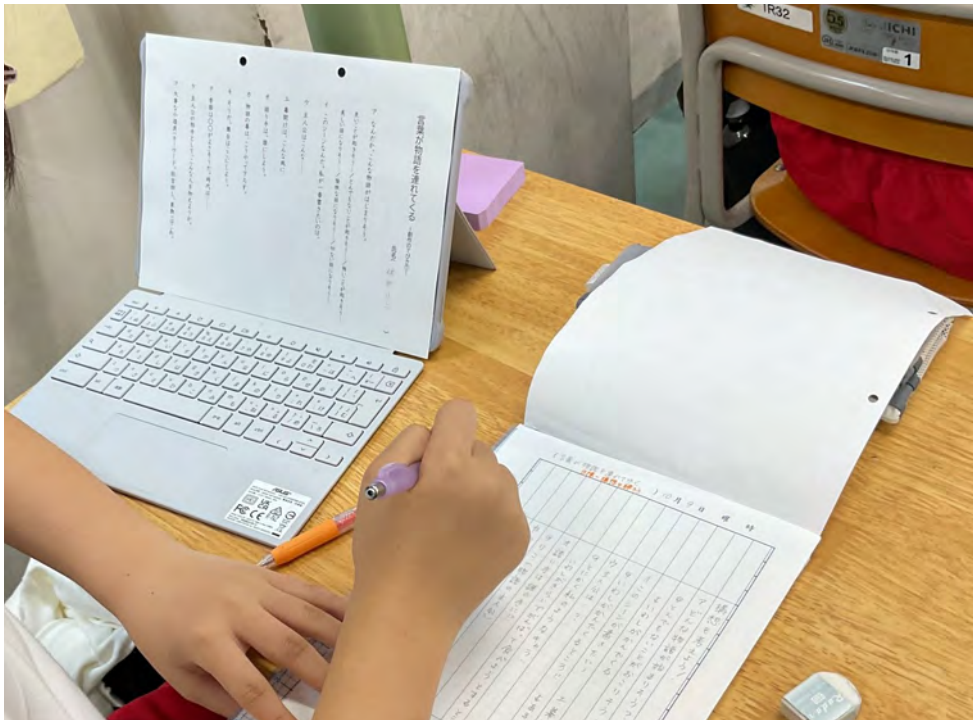
田丸式メソッドを使って、「不思議な言葉」（物語の種）を生み出した。試行錯誤の跡がある。①「時間、空間、本、音」は友達からプレゼントされた名詞。

生徒の記述の実際（第1時） 物語の題材をつくる。

灼熱の水	色のついた心	冷たい暖炉
ぐうたらしているロボット	春のユニコーン	舞い上がる音符
甘い髪	図書館の月	音の学校
吠えるルーレット	強いリンゴ	リンゴのデスゲーム
びんづめの宇宙	色あせるバナナ	空想上ピラミッド
反射するメロンパン	小人の舌で溶ける夢	捨てられるフルート
うるさいカオナシ	人生の一部の本	御供物の花
人生の時間割	インテリな幽霊	運命のマグネット
時空が流れるゴミ箱	夢の証拠品	砂浜の音楽

日常生活では存在しない組み合わせの、自分だけの「物語の種」が生まれた。

生徒の活動の実際（第2時） 物語の構想を練る。→下書きをする。





第2時の振り返り

物語をどんな内容にするかは大体決まっているけれど、いざ下書きを始めるとなった時に「ここはどう展開しよう、どう間を埋めよう」など、考えて設定を見返すことが多かった。でも、そうやって設定を何度も見返すことで内容を確かめたり、題名にあっているかを考え直したりすることができるからそういう方法もいいなと思った。また、考えているだけでは全然アイディアが浮かばないのでそのことから離れて息抜きをすると、ふと内容を思いついたり、ある出来事から内容を広げられたりできる。

創作の手引き①（左:表、右:裏）を使って、構想を練る。各々もう書き始められると思ったタイミングで書き始める。

第3時に向けたてびきの修正

追加したてびき

言葉が物語を連れてくる ～創作のてびき②～

氏名（　　）

○物語を記述する際の心がけ～ブレーキをかけながらアクセルを踏む～

大前提…言葉にこだわる

〈言葉にこだわる時のワザ〉

□「悲しい」「不思議」「変」など直接的な言葉を使っていませんか？　頭に最初に浮かんだ言葉を即座に使っていませんか？→「お茶中心情描写辞典」を参考にしよう。

□状況を説明しすぎていませんか？→人物の行動、セリフ、情景で語ってみよう。

□セリフと地の文のバランスはどうですか？→セリフを削る勇気をもとう。

□さりげなく表現の技法を使ってみませんか？

例、彼は読書が好きだ。→彼は本の虫だ。（隠喩）／本が彼を手放さなかった。（擬人法）

□同じ言葉を繰り返していませんか？→web の類語辞典を活用しよう。

□言葉は文章の雰囲気に合っていますか？→和語・漢語・外来語を使い分けてみよう。

例、本なら、巻、書、書物、書籍、図書、書冊、ブック、テキスト、データなど

○ディテールにこだわって…う～God is in the details～

イ　主人公は……

どんな顔、どんな声、どんな…は、性格は、どんな服を着て…いる？

ロ　どうしても、登場人物に…詞があるんだ。

ハ　結末につながる伏線を張…れ…

ニ　クライマックスに光を当て…この…

ホ　主人公をこんな光景の中…い。

ヘ　表現の工夫をそっとして…気付…

音が出ないというのは、吹奏楽部の私にとって重大な課題だった。
それは先輩が引退してから初めての部活の時だった。
今まで音は出ていたからこそ、絶望感がすごかった。
何分かけても吹けない。私は嫌になって音楽室を飛び出した。

第2時の下書き

創作の手引き②の赤囲みは第2時の生徒の下書きを読み、追加したもの。言葉にこだわるスイッチを押すためのてびき。

生徒の記述の実際（第3時） 下書きをする。

before

音が出ないというのは、吹奏楽部の私にとって重大な課題だった。
それは先輩が引退してから初めての部活の時だった。
今まで音は出ていたからこそ、絶望感がすごかった。
何分かけても吹けない。私は嫌になって音楽室を飛び出した。

after

先輩が引退してから初めての個人練習。フルートを構えて、大きく息を吸った。

フルートから出たのは、予想もできなかった、かすれた汚い音だった。
それは、フルートを構え直しても、時間を開けてみても変わらなかった。

手が小刻みに震えて、汗が滲む。心臓の音が痛いほど聴こえる。
なんとも思わなかった今日の寒さでさえ、私の心に突き刺さった。

できない自分が嫌になって、フルートを片付け、部室を飛び出した。
それから、吹けない自分、できない私が嫌になって部室には行かなかった。

このままじゃだめだと思う気持ちとうらはらに、部室の前に立つと足が震える。
ーでも、変わらなきゃ。
部室に入ろうと、ドアに手を伸ばすと、後ろから声をかけられた。

「やっとフルート吹きに来たんだ。今まで先輩に甘えてたんじゃないの。前の音、聴いてたけど、あなたの心の中みたいだった。ちゃんとフルートと向き合ったこと、ある？」

てびきによって、下書き原稿が大きく加筆・修正された例。主人公の「絶望感」が、複数の行動描写や表現技法によって表現されている。

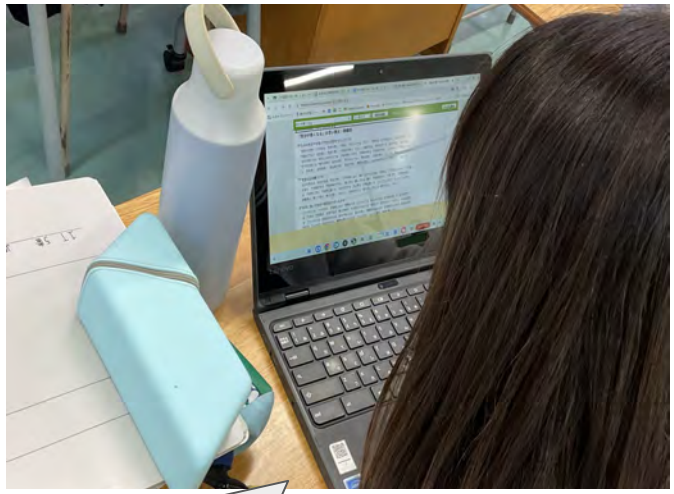
第3時の振り返り

今日は前回に続いて物語の下書きを行った。構成はかなり考えているけれど、小道具をどのようにするのか、名前の意味などはあまり決まっていないので、文を書くたびにストップして細かい設定を決めていっている感じ。あと、表現の工夫をして読み手に興味をもたせることも考えているため難しい。でも、そうすることでより良い物語になるからいいと思う。

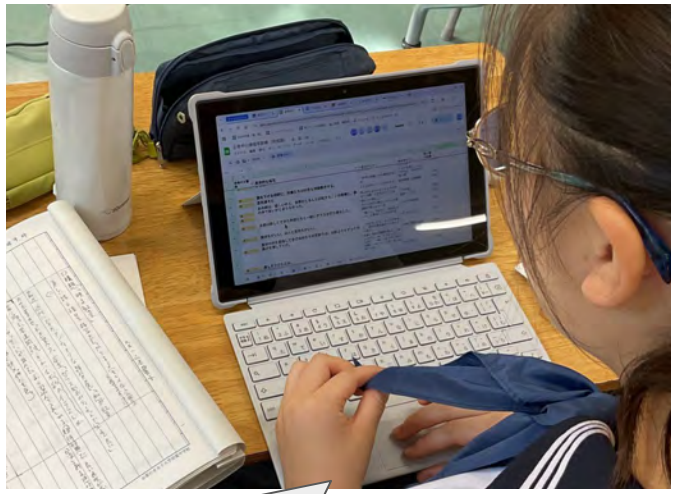
生徒の活動の実際（第3時） 下書きをする。



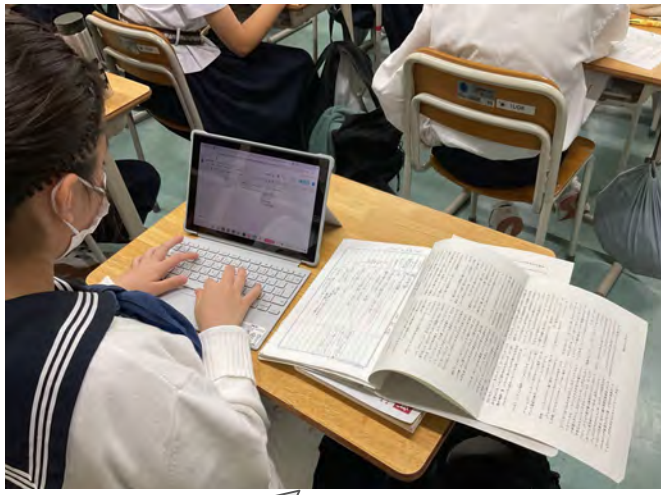
登場人物をイラストにしてみる



web上の類語辞典を引いてみる



「お茶中心情描写辞典」を使ってみる



モデル文を参考にしてみる



気分を変えて中庭で書いてみる



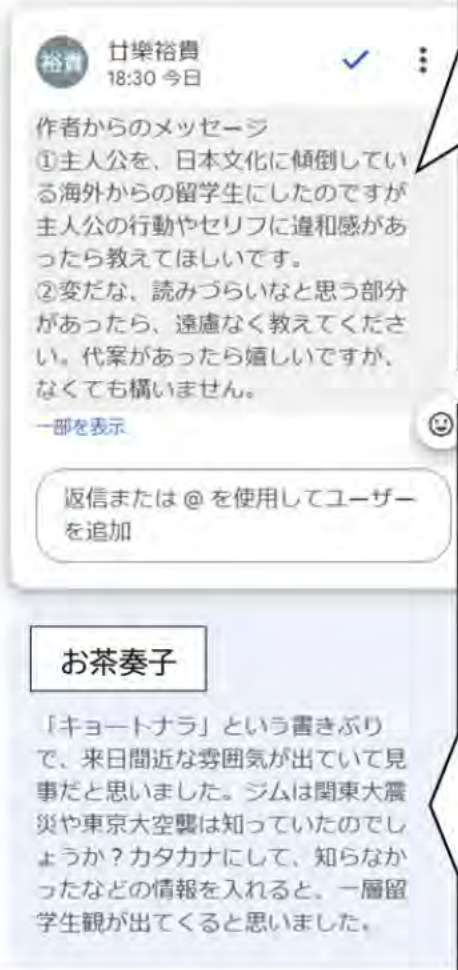
図書室で取り組んでみる

生徒の記述の実際（第4時） 下書き交流をする。

言葉が物語を連れてくる　～下書き交流の手引き～　　氏名（　　）

しゃれてくる手帳

冷たい風が吹くようになってきた十一月のある日、スーツの内ポケットが不意にあたたかくなった。
「ホッカイロなんて入れてたっけ？」
取引先から会社へと小走りで戻りながら、ジムはつぶやいた。
「今日もうまくいかなかったナ……。やっぱり遅刻はゲンキンだ。」
ため息をつきながらデスクについて、明日のプレゼンの予定を確認しようと手帳を置くと、ひとりでにページがパラパラめくられている。手に取って目をこらしてみると、黒いカバーがうっすら赤みがかっている。
オーマイゴッド！　これがオーヤさんが言っていた、ニホンの「八百万の神」か！
「ジム、いいかい？　我が国、ニホンには神様がヤオヨロズいるとされている。だから物を簡単に捨ててはいけないよ。モッタイナイという気持ちで大切にすれば、いつか神様が命を吹き込んでくれるのさ。」
そうオーヤさんは教えてくれたんだ。オーヤさんの家は古い日本家屋で、木造の平屋。半年前からジムはその六畳間を一部屋間借り住んでいる。「うちは関東大震災でも東京大空襲でも壊れなかったのさ」というのがオーヤさんの口癖で、廊下や柱を丹念に雑巾で磨き清めるのが日課だ。来日直後にキョートナラを訪れて、伝統的な寺社仏閣に深く心を打たれたジムにとって、「命が吹き込まれる」という教えはまさに神の啓示だった。アメイジング、ジャパン！
まじまじと手帳を見ながらジムは思った。思えば、この手帳は、日本に来てから半年の間、暑い日も寒い日も、予定を管理し続けていた。プレゼンがうまくいった日も、必死に謝りながら次のチャンスをお願いした日も、ジムはこの手帳と共にあった。
「一番大切にしていたから、命が吹き込まれたんだ。」
愛おしい気持ちで、ジムは手帳に頬ずりした。手帳からは、ドクドクと心臓の鼓動のような音が聞こえてきた。
それからの数週間。ジムは、どんな仕事も楽しくこなした。日々のルーティンワークも、ページを開くだけで手帳が喜んでくれる。手帳がくすぐってくるのが愛らしくて、自然と手帳を開く回数も増え、仕事は大いにはかどった。約束を忘れそうになると手帳が内ポケットから胸を叩いて教えてくれるので、うっかりもののジムも遅刻をしなくなった。
こんなこともあった。プレゼンの準備が間に合わず、キーボードを必死に叩いていた深夜。



まずは、作者としてのメッセージを書きましょう。
友達にコメントをもらいたい部分、今でも悩んでいる部分などについて書いておくと指摘をもらいやすいでしょう。特になければなしでもよいです。

下書き交流なので、清書前に気が付いたことは指摘しましょう。ただし、作者が受け取りたいという言い方をする気遣いは忘れずに。
代案があれば、書いてくれると、作者としては嬉しいです。
ただし、代案がなくてもなんとなく気になることがあるなら伝えておきましょう。読み手としての自分の思いを大切に。

「――自分の原稿に、あそこまで丁寧に鉛筆や赤を入れてくれた校閲さん、河野さんだけだったから。」

「校閲ガール」宮木あや子　角川文庫　p221 より

下書き交流のてびき。コメントの仕方を学ぶ場でもあることを伝えた。

生徒の記述の実際（第4時） 下書き交流をする。

前述の生徒の下書き

フルートを構えて、大きく息を吸った。その時の感触は今でも覚えている。
あの日の、先輩が引退してから初めての部活のことを思い出していた。
気合が入るのも当然だ。私がフルートのパートを支えていくんだ。
憧れだった先輩たちみたいになりたい。
でも、その気合いは空回りした。
フルートから出たのは、予想もできなかった、かすれた汚い音だった。

今までは音が出ていたのに。怖い、頑張って吹かなきゃ、先輩たちがいなくなった分。

でも、フルートを持っている手が小刻みに震えて、汗が滲む。心臓の音が痛いほど聴こえる。なんとも思わなかった今日の寒さでさえ、私の心に突き刺さった。

なんとなくフルートを見ていると、周りの景色がぼんやりと反射していた。
四月にフルートを始めたときは、もっとキラキラしていて、鏡みたいだったのに。
その輝きは失われている気が、なんとなくした。

そういえば、最近私は、周りを見ることができていただろうか。フルートと向き合っていただろうか。他のパートの音を聴いて、指揮を見て。私のフルートのケースにはほこりが溜まっている。

私は、自分の音に酔いしれて、他の人の音をきけていない。そんなのは吹奏楽部として言語道断だ。だから、そんな今のフルート吹きの私を捨てて、もう一回、やってみよう。フルートを磨くと、反射した自分の顔が、少しすっきりしたように思えた。
外の景色がさっきよりもくっきり見える。フルート越しに見ても、黄梅の花が綺麗

作者のメッセージ

1320 木 14:32

作者の

皆面白い発想があるから、ばしばしアドバイスお願いしたいです！
もっと物語が良くするために、ご協力お願いします！！

あ、とうふメンタルなので言い方に気を付けていただけると幸いです。

●簡単に概要を説明すると、主人公は中学生で吹奏楽部という想定です。名前とかは情報過多かなぁと思ってつけてません（めんどくさかったとかではないよ！？！？）

音色をおんしょくと読ませているのには私のこだわりがあります。

あと、物語に没入できるような表現を使いたいと思ったので、そこについてアドバイスあればお願いします

●ここ、こうすればいいんじゃない？は気軽に教えてください！！
お願いします！！

友達のコメント①

1303 木 14:43

最後の新入生歓迎会の所で「今までの集大成だ。」の所が好きでした。直すところはないと思われます。

友達のコメント②③

1328 木 14:52

フルートの描写で主人公の心情が表されていてとてもきれいだと思いました。演奏する直前で物語のラストを迎えているのがすごくいいです！
アドバイスとしては強いて言うなら新入生歓迎会の始まる前で頑張ることにしたから急な場面転換だと個人的に感じたので時間をあらわす言葉をいれてみてはどうでしょうか？
ですがすごく勇気といいいますか頑張ろうと思える作品でとてもおもしろかったです。
あと冬と言っていないのに冬だと伝わる表現がすごいです。

1317 木 15:00

本当にプロの作家さんですか？？ってくらいすっっっばらしい物語でした！言葉一つとっても熟考したのが伝わってきましたし、主人公の複雑な感情がとっっっってもよく伝わってきました！特に好きな場面は最初の「なんとも思わなかった今日の寒さでさえ、私の心に突き刺さった」というところと最後の「今までの集大成だ。ここが私の舞台だ。」という対句のところです❣️
アドバイスとしては、ショートショートだから仕方がないかも知れないけれど、主人公の心情の変化がちょっと急すぎるかも？と思った次第です！でもそこもほとんど気にならず、改めてすっっっっっばらしい物語だと思いました！こんな物語に出会えた私は幸せものです❣️

作者としてのメッセージを書くことで、友達も作品に指摘しやすくなった。感想を交えながら、表現のディテールや展開に着目して、的確な助言をしている生徒が多かった。

生徒の記述の実際（第4時） 評価の実際 思考・判断・表現【中2Bウ】

生徒の清書

「ううん、セレネもわかっているだろうが、私はこの通りもう年寄りだし足も悪くてねぇ。到底無理だね。セピア、あんたは私の自慢の孫だよ。本当に聡明でいい子に育ってくれた。すっぱい鏡とわたしたちの運命を救えるのはセレネだけさ。」

「私、恐いけどやってみる……！」

セレネの心の中では不安が拭いきれない雨雲のように広がっていたが、それでも私がやらなければいけないのだとそこからの10日間自分に言い聞かせた。そして10日後、完成した麗しい鏡を見て心の中に晴れやかな青空が広がった。セレネはこの鏡を守ってみせると決意した。

時は過ぎ、セレネは逃亡した地で暮らし続け結婚し、子ども、さらには孫までできた。この土地に来たばかりの頃は一日一日を必死に送っていたが、運よく安定した

生徒のコメント

❷描写
不安を雨雲に例え、一度やってみるとは言ったものの決心がつかないセレネの感情を表現しました。

❷描写
先程の雨雲の反対みたいな感じで決心がついたセレネの心情を晴れやかな青空で表しました。

登場人物の心情を情景描写を使って表現することができており、描写によってねらった効果を具体的に記述することができているので、おおむね満足できる状況（B）と判断した。さらに、雨雲から青空という情景の変化によって、登場人物の心情の変化を効果的に表現することができていることから、応用・活用の意識が見られるため、十分満足できる状況（A）と判断した。

生徒の記述の実際（第4時） 評価の実際 知識・技能【(1)オ】

生徒の清書

母に託された鏡を肌身離さず大切に持っていた。ずっと持っていたせいか、今ではすっぱいものが大好きだ。逃亡したばかりの頃、セレネは身分を偽るために「セピア」と改名した。「セレネ」という名前は珍しい名前だが、この地域で「セピア」はよくある名前だったからである。それに大好きだった祖母の名前とあれば、一石二鳥。なんの因果か、孫の名前は「セレネ」だ。最近たまたますっぱい鏡はあまり使っていなかったが、久しぶりに使おうと思いセレネに蔵から持ってくるよう頼む。

もしかして……私は思い出した。何十年も前の自分の状況と、当時は不思議でたまらなかったあの祖母の穏やかな表情を。その時、蔵の方から鋭い音がした。

生徒のコメント

❶表現技法
「一石二鳥。」と体言止めを使っています。体言止めにすることで一石二鳥という言葉が際立つのではないかと思いました。

❶表現技法
ここは倒置法を使いました。「何十年も前の自分の状況」「当時は不思議でたまらなかったあの祖母の穏やかな表情」の部分が重要なところなので、倒置法ではっきりくっきり強調しました。

体言止めや倒置法を話の中で使うことができているため、おおむね満足できる状況（B）と判断した。さらに、技法の働きとねらった効果が合致しており、言葉にこだわっていることがわかるため、十分満足できる状況（A）と判断した。

【補足】なぜ中1で創作なの？

- お茶中は自主研究や生徒祭、他教科などで、自分でテーマを決めて探究していく学習が多く、1年生の段階で自らの力で作品を作り出すことができるという自信や、作品を作り出したときの達成感や喜びを味わい、学校生活を豊かに送ってほしいから。

  「ある人が将来クリエイティヴな人間になるか、あるいは単なる記号の反復者になるかは教育者にかかっている。ある人が自由に生きるのか、それとも条件づけられて生きるのかは人生の初期段階をどのように過ごしたか、そこで何を経験し、どんな情報を記憶したか、ということにかかっているのである。」（ムナーリ2006）

- 1学期に詩の創作を行ったが、自由にテーマを決めることを楽しんだり、言葉にこだわって生き生きと作品を作ったりした生徒がいる一方で、自力でテーマを決めたり、作品として形にしたりすることに課題がある生徒もいるから。

【補足】なぜ中1で物語創作なの？

- 作品を丸々書く物語創作は、詩などの韻文創作に比べて骨が折れる言語活動であるが、完成する過程の中で、一つの山を築き得た後のような達成感や新しいものを生み出すエネルギーを実感することができるから。
- 物語には、書き手ならではの楽しみや作品を互いに読み合う喜び、自分自身を見つめる力があり、子どもたちのプラスのエネルギーを高めるのに有効であるから。
- 一学期から読書ノートの取り組みも行っており、文学作品に親しんできているため、読書経験を生かした物語創作を行うことができるから。
- 中2の指導事項もあるが、中学校学習指導要領　第3指導計画の作成と内容の取扱い1(2)「第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年の前後の学年で取り上げることもできること。」に基づいている。

【補足】なぜ田丸式メソッドなの？

- 物語の創作は、自分の体験を虚構を交えて書き換える方法、絵本や写真、俳句、物語の続きなどベースとなる教材をもとにする方法、与えられた設定から膨らませていく方法などが主流であり、自力でテーマを決めて書く方法は少ない。

- 言葉と言葉を組み合わせて、日常にはない「不思議な言葉」を生み出し、物語の題材にするという田丸式の方法は、言葉の相乗効果や発想のコツを知ることができ、子どもたちの題材設定の苦労を乗り越えさせてくれるから。

「ふたつのことばの間には、ある距離が必要である。一方のことばが他とまるで関係のないこと、およびその接近がかなり異常であることが必要である。なぜなら、想像力というものはそれらの間に類縁関係を設置し、ふたつの要素が同居しうる（ファンタスティックな）集合をつくり出すために活動を開始することを余儀なくされるからである。」（ロダーリ1978）

- 附属小学校で取り組んできた自由なライティングワークショップの経験を生かして、言葉をかけ合わせるおもしろさを体験できるから。

【補足】なぜ田丸式ワークシート②ではなく、手引きを使うの？

- 田丸式は「短くて不思議な物語」である超ショートショートを90分という短時間で生み出すメソッドであり、ワークシート②は一つの物語の型に沿って発想する方法になっている（不思議な言葉の説明→良いこと＋悪いこと＋それ以外の整理→まとめる）。以前ワークシート②を改良したものを用いて物語創作をしたところ、取り組んだ全員が物語を書き終えることはできたものの、オチがなくてはならないという誤解、登場人物や語り手の設定の不十分さなどが一部の作品に見られた（田丸氏はオチがなくてもよいといっている）。またワークシート②に取り組んだ際、発想を十分に広げられず、手が止まってしまう生徒も見られた。生み出した題材の幅の広さに応じきれていないように思われた。

- 本単元における物語は、2000字程度の小編で、不思議さやオチはなくてもよいものとしたい。そのため、書き手の気づきを促す創作の手引きを使うことで、生徒の作り出した題材に応じて多様な発想の広げ方を助けたいと考えたから。「なるべく指図されたという意識がめだたないようにしようとした。」（大村はま1983）

【補足】化学反応が起きそうな言葉

化学反応が起きそうな一〇八の言葉

さわがしい
やんちゃな
はてしなく遠い
グラウンドに舞う
憎らしい
天をあおぐ
じたばたする
気取った
ばつの悪い
しどろもどろの
びしょ濡れの
雨上がりの
虹の
投げ損なった
静まりかえった
青白い
いきなり飛び込んでくる
顔も知らない
岩陰にひそむ
海に帰っていく
屈強な
追い求めてきた
幻の
穏やかで満ち足りた
村一番の
くしゃみをする
意地を張る
しょんぼりする
きょとんとする
半信半疑な
たちまち消えてしまう
お参りをする
生真面目な
話し上手な
群を率いる
油断のない

忌々しい
会心の笑みをもらす
暁の
なついている
真っ赤に燃える
冷え冷えする
目をくらます
救わねばならぬ
はらはらと散る
卑怯な
ひとりぼっちの
いたずらばかりする
壊れかけた
照れくさそうな
おしゃべりな
銀木犀の
星形の
音もなく落ちてくる
閉じ込められた
すれ違う
お守りの
ぎこちない
サバンナの
憎らしい
ほころびる
ハンサムな
秘密基地の
厄介な
見上げる
色あせた
おやすみを言う
きらびやかに光り輝く
用心深い
熱情的な
不愉快な
とりこになる

うっとりする
忍び寄る
透き通った
古くつぶれた
ぜいたくな
非の打ちどころのない
難癖をつける
思いがけない
優雅な
僕を見つめる
泣かんばかりの
冷淡に構える
激怒する
律儀な
憫笑する
そっとほくそ笑む
疲労困憊な
よろよろと歩き出す
歓喜に酔っている
灼熱の
独りよがりな
恐ろしく大きい
緋の
ぐうたらしている
落ち着かない
文句ばかりの
氷の
無愛想な
ほら吹きな
夏休みの
責められる
お盆の
他人行儀な
学童疎開をする
情けない
諦めの

３　本単元にかかわる学習活動の流れ（再掲）

単元名	主な学習活動	付けたい力
①どの結末がお好き？ （１時間）	・結末を選べる短編集「羊飼いの指輪」ロダーリの２編を読み、多様な結末や、物語を結ぶコツをつかむ。	・文章を比較し、展開について考える（中2Cエ）
②お茶中感情描写辞典をつくろう （１時間）	・好きな小説を持参し、感情に合う描写を探し、スプレッドシートにまとめる。（創作時に活用）（喜・怒・哀・楽・驚・嫌・恐・安）	・心情について描写を基に捉える（Cイ）
③徹底考察「星の花が降るころに」 （３時間）	・教科書教材「星の花が降るころに」を読み、物語の構成や表現のしかけ（回想、象徴、道具、キャラクター設定、伏線など）を分析、考察する。	・事象を表す語句の量を増す（(1)ウ） ・場面と場面を結び付け、解釈する（Cウ） ・表現の効果について考える（Cエ）
④言葉が物語を連れてくる （５時間）	・言葉と言葉を組み合わせて、物語の題材を設定する。 ・表現を工夫して自分の物語を創作する。 ・短編集を読み合い、他の文章のよい点を探す。 ・自分の作品のよい点・改善点を見出す。	・表現技法を理解し使う（(1)オ） ・題材を設定する（Bア） ・描写などを工夫する（中2Bウ） ・読み手の助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出す（中2Bオ）

５　本単元までの学習活動の実際　①どの結末がお好き？

単元名	主な学習活動	付けたい力
①どの結末がお好き？ （１時間）	・結末を選べる短編集「羊飼いの指輪」ロダーリの２編を読み、多様な結末や、物語を結ぶコツをつかむ。	・文章を比較し、展開について考える（中2Cエ）

やりかた

«手順»

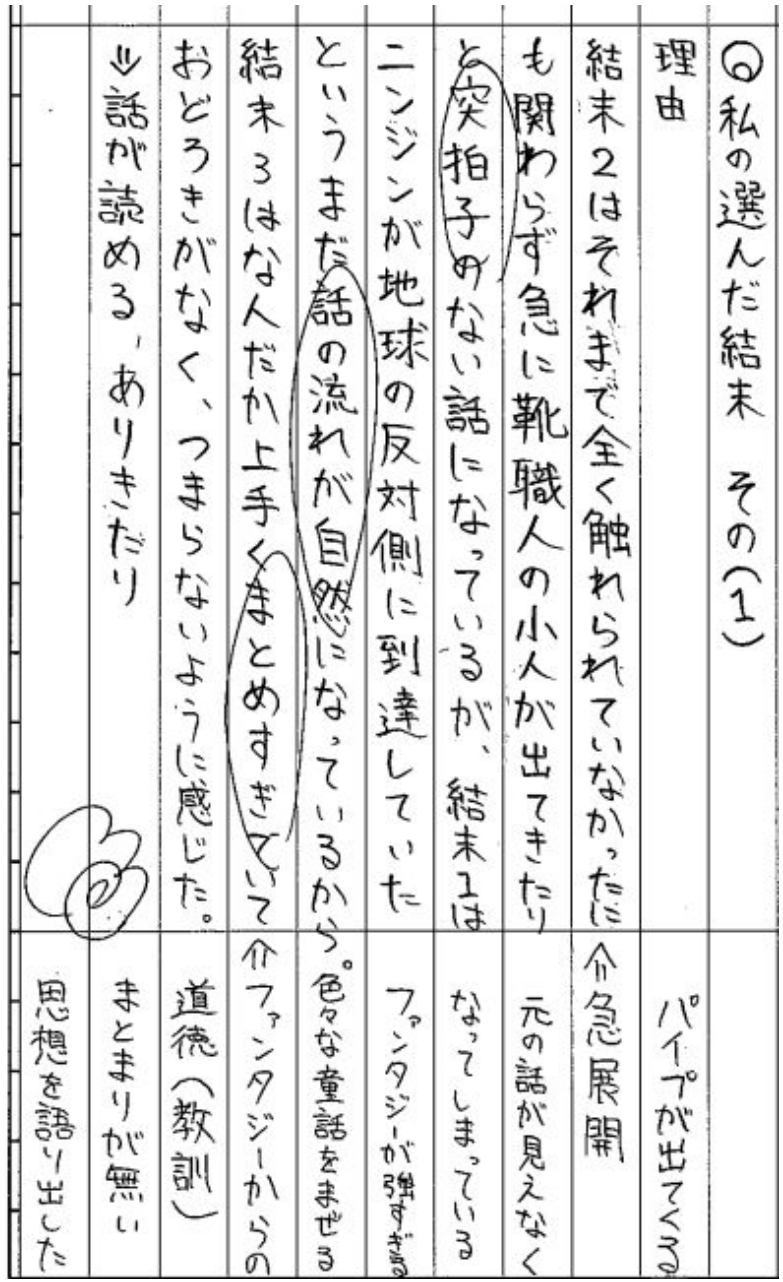
①「大きなニンジン」の３つの結末から、一番好きな結末を選び、その理由を書く。
（他の結末と比べて、よさを書こう）

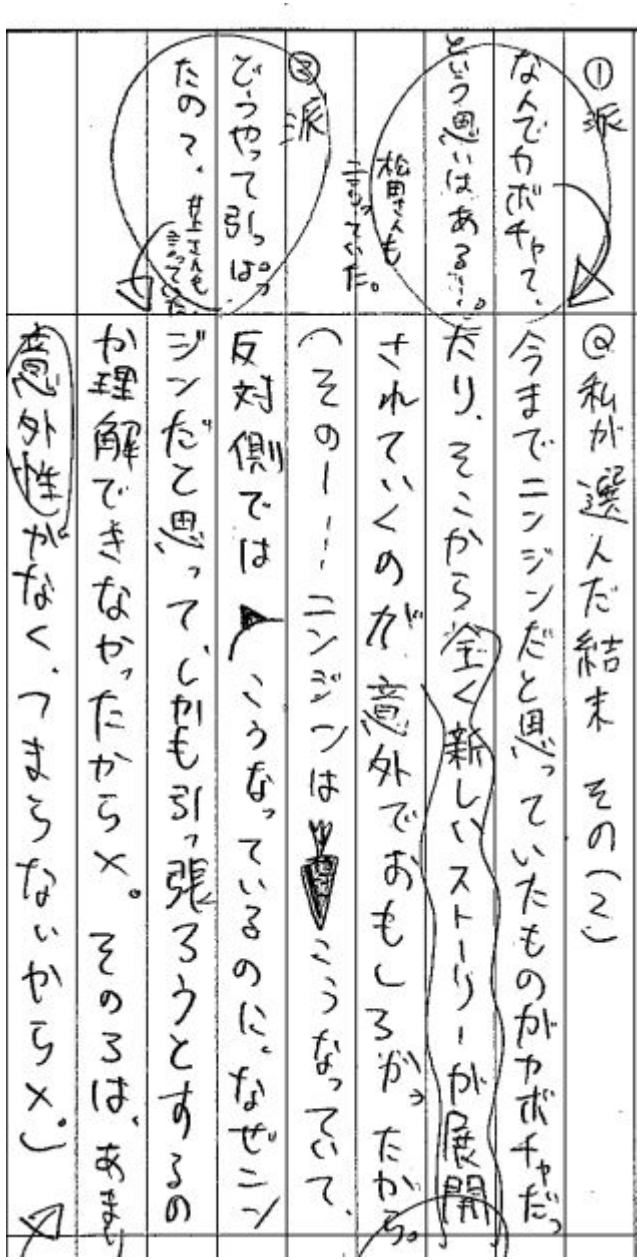
②学習班で結末について語り合う。
（最適な結末を選べたら選んでみよう）

③物語の結末についての考察を書く。



生徒の記述の実際

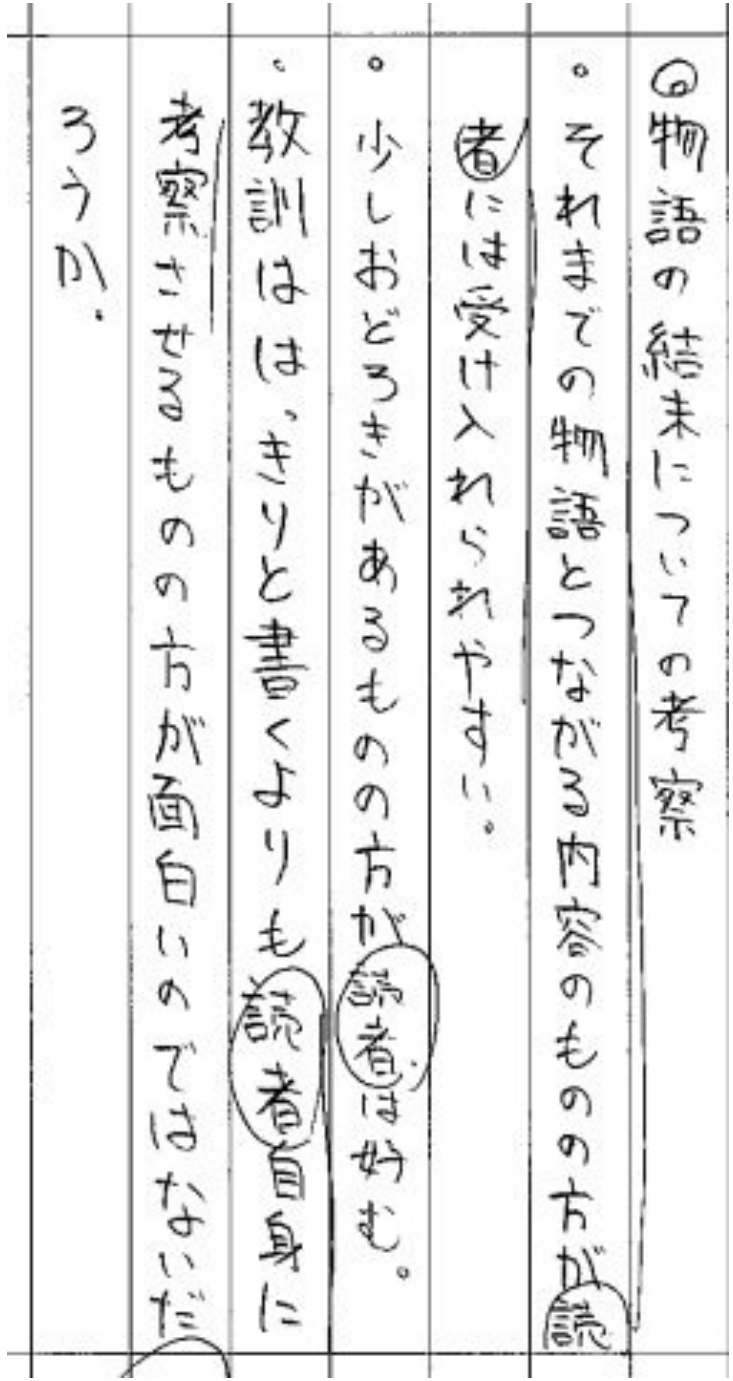


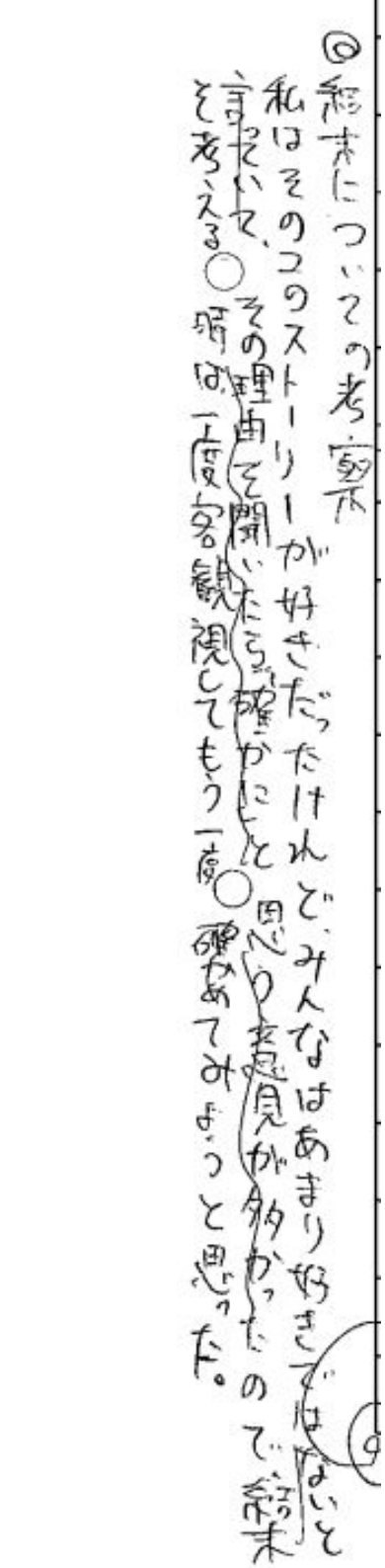


生徒はそれぞれの好みに沿って、3種類の結末を選択した。他の結末と比べ、根拠に基づいて理由を書いている。

生徒の記述の実際

創作というゴールがあるため、結末についての考察には、書き手の立場からの記述が見られた。





５　本単元までの学習活動の実際　②お茶中心情描写辞典をつくろう

単元名	主な学習活動	付けたい力
②お茶中心情描写辞典をつくろう （１時間）	・好きな小説を持参し、感情に合う描写を探し、スプレッドシートにまとめる。（創作時に活用）（喜・怒・哀・楽・驚・嫌・恐・安）	・心情について描写を基に捉える（Cイ）

やりかた

«手順»
①持参した小説から、五感を使って登場人物の感情を表している描写を探し、スプレッドシートに記入する。
（記入の順❶感情❷描写❸コメント❹書名❺４ケタ番号）
②できる限り多くの感情が見つけられるようにする。
（８種類の感情を網羅できたら）
③感情を表す描写についての考察を書く。

５　本単元までの学習活動の実際　②お茶中心情描写辞典をつくろう

単元名	主な学習活動	付けたい力
②お茶中感情描写辞典をつくろう （１時間）	・好きな小説を持参し、感情に合う描写を探し、スプレッドシートにまとめる。（創作時に活用）（喜・怒・哀・楽・驚・嫌・恐・安）	・心情について描写を基に捉える（Cイ）

人間の基本感情を8つに整理した「プルチック感情の輪」を用いて、持参した本における描写を抽出した。



生徒の記述の実際

	A	B	C	D	E
1	感情の８種類	具体的な描写	一言コメント	本のタイトル	記入者４桁番
	嫌	こんはひくうとして、小さくなって立ち止まりました。	がよくわかる。	ごんぎつね	1501
9	怒	兵十は立ち上がって、なやにかけてある火なわじゅうを取って、火薬をつめました。	ためらいがない動作から怒りの大きさが伝わってくる。	ごんぎつね	1501
10	楽	自分の村を目指して歩き始めたその足取りは、以前よりもずっと力強さを増していた。	「力強さ」から、主人公が成長し、期待に満ち溢れているのだと感じた。	5分後に意外な結末	1331
11	恐	鍵をかけておいたドアの向こうに、一人や二人ではない、沢山の人の気配を感じた。ドン！ドン！ドン！と矢継ぎ早にドアが叩かれる。「出てこいよ、いるんだろ」「裏に回ろうよ。窓から姿、みえるかも」鳥肌が立った。	「沢山の人の気配」「ドアが叩かれる」「鳥肌が立った」＋音で恐怖を表現している	鏡の孤城	1304
12	嫌	幸太は朝からちょっと気が重い。また今日も、あの息のつまるような時間を過ごすのか･･･。	「気が重い」「息の詰まるような」など、主人公の憂鬱な気持ちが比較的よく現れている。	5分後に意外な結末 エメラルドに輝く風景	1331
13	楽	気持ちがいい。ほんと気持ちがいい。	「楽しい」ではなく「気持ちがいい」と表現しているのが良い。	ガールズブルー	1317
14	嫌	自然とため息が出そうになるのを、私は必死に堪えた。	ため息となっているので、良くない感情ということがわかる。	夜が明けたら、いちばんに君に会いにいく	1308
15	哀	まるで獣のように慟哭し、喉が張り裂けんばかりに泣き叫んだ――。	言葉の使い方が面白い（違う意味で）。この文章だけでどれだけ悲しみに溢れているかがわかる。	余命一年の君が僕に残してくれたもの	1330
16	嫌	封筒の中身を確かめた麻由美が顔をしかめた。	わかりやすい表現で、その場面をパット頭に思い浮かべることができる。I	少年と犬より「男と犬」	1302
17	喜	春花は、頭の中に子馬のまぶしいすがたを思いえがきながら、帰り道を歩いた。	眩しい姿という言葉から喜び（嬉しい）を感じれる	なまえつけてよ	1332

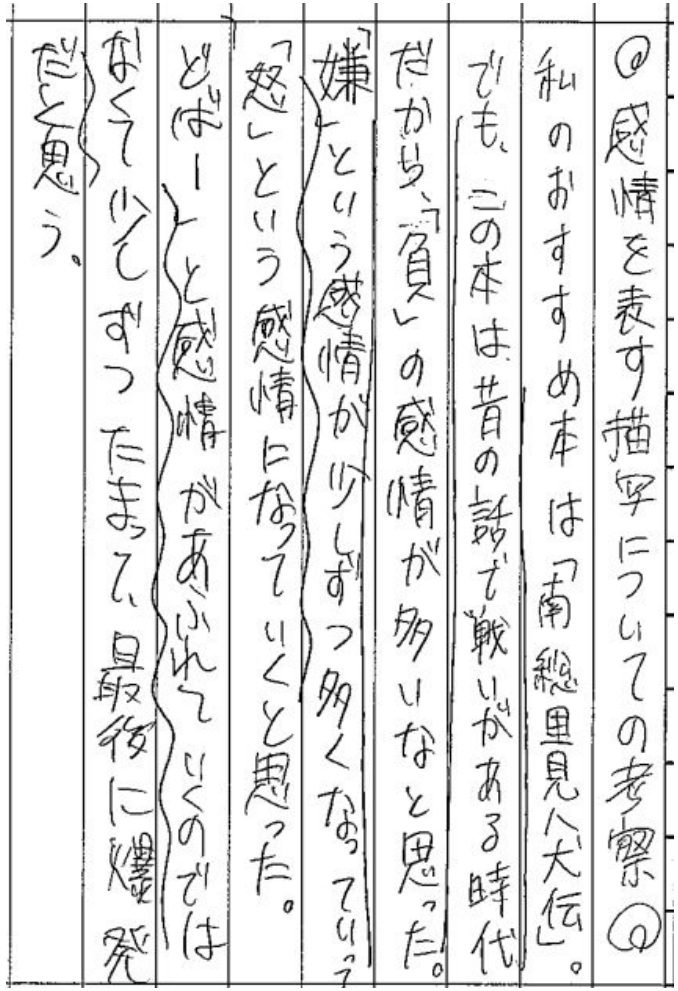
感情を選び、具体的な描写を抜き出し、コメントを書く。コメントにはそれぞれの解釈が表れている。9の「ごんぎつね」は教師の手引き。

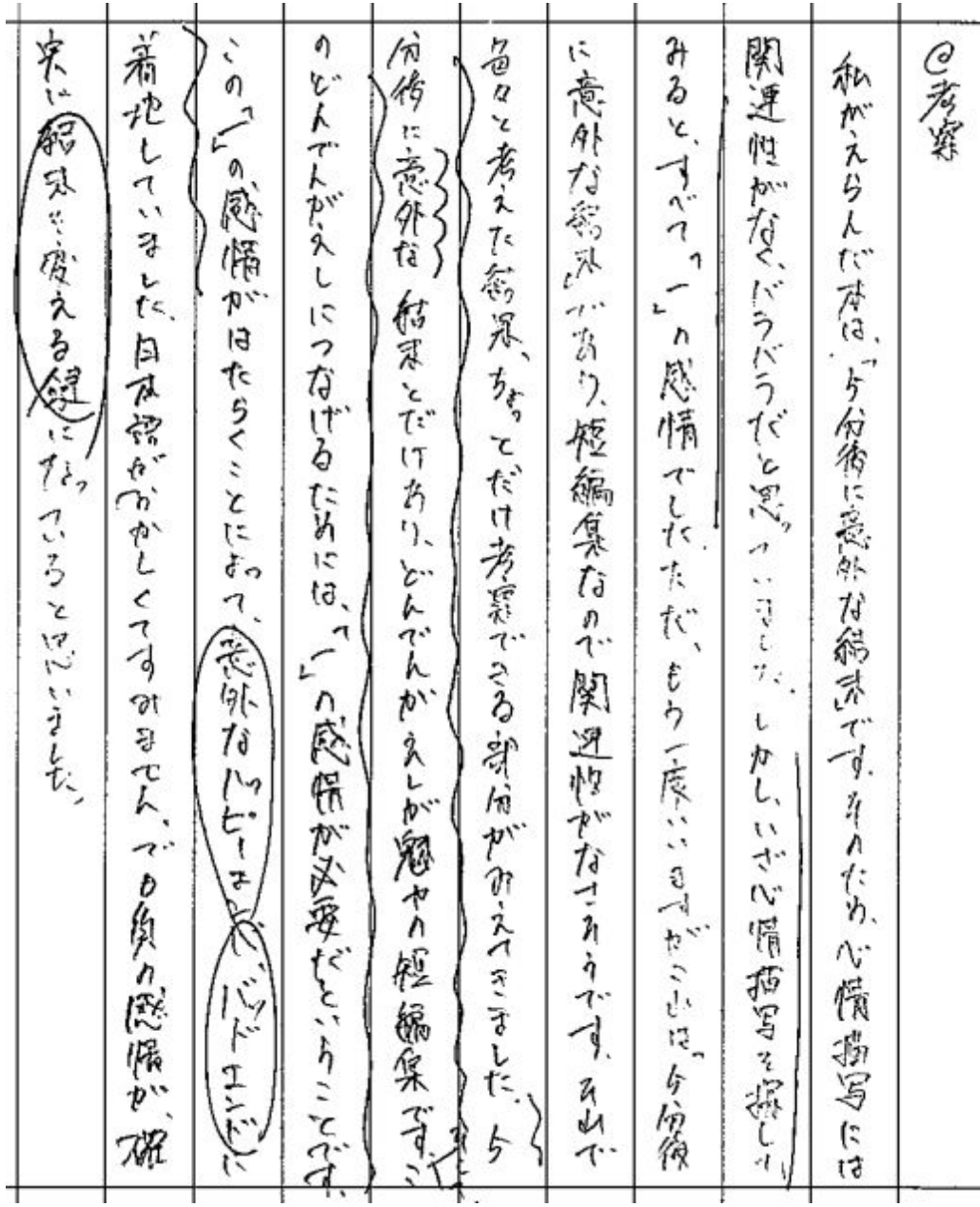
生徒の記述の実際

喜	ヴェラは、思わず歓声をあげた。	喜んで声を上げているようすがわかる。	そして誰もいなくなった	1323
喜	音のない世界で花火が花開き、君だけの声が聞こえた。	君との未来が見えた瞬間	夜に駆ける/あの夢をなぞって	1327
喜	もう一言で落とし所に持っていけるだろう。わたしは笑顔を深めた。	相手に対して勝負をふっかけてるみたいな感じ。	本好きの下剋上	1328
喜	春花は、頭の中に子馬のまぶしいすがたを思いえがきながら、帰り道を歩いた。	眩しい姿という言葉から喜び（嬉しい）を感じれる	なまえつけてよ	1332
喜	空一面からシャワーの水が降ってきた。	二人とも悲しくなったことを表していると思う。	帰り道	1332
喜	なんて優しい人だろう。	見ず知らずの自分を救ってくれたことに感謝している。	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。	1334
喜	思わず、「やったね！」と歓声も出た。	由香ちゃんが縄跳びを三回続けて飛べたことを喜ぶ感情が表されている。	きみの友だち	1335
喜	萌が飛びついてきた	同じクラスになれて嬉しいことがよく分かる	もっと泣いちゃいそうだよ	1104
喜	柔らかな春の日差しが、校庭の木々のまだ若い緑の葉を、きらめかせている。	嬉しい気持ちを表している。	もっとないちゃいそうだよ	1104
喜	頬が熱くなる	恥ずかしさが伝わってくる	もっと泣いちゃいそうだよ	1104
喜	桜は散り始めて、桜吹雪。	また話せて嬉れしさが伝わってくる	もっと泣いちゃいそうだよ	1104
喜	ハグリッドは誇らしげに反り返った	反り返った（嬉しそう）	ハリー・ポッター 賢者	1106

全クラスの描写を感情ごとに整理し、創作時の辞書として活用する予定。
行動描写だけでなく、情景描写や比喩表現も含まれていることがわかる。

生徒の記述の実際





描写に関する考察には、持参した本に多かった描写の感情とその理由の記述が多く見られた。活動後に考察する時間を入れることで、概念化を図っている。

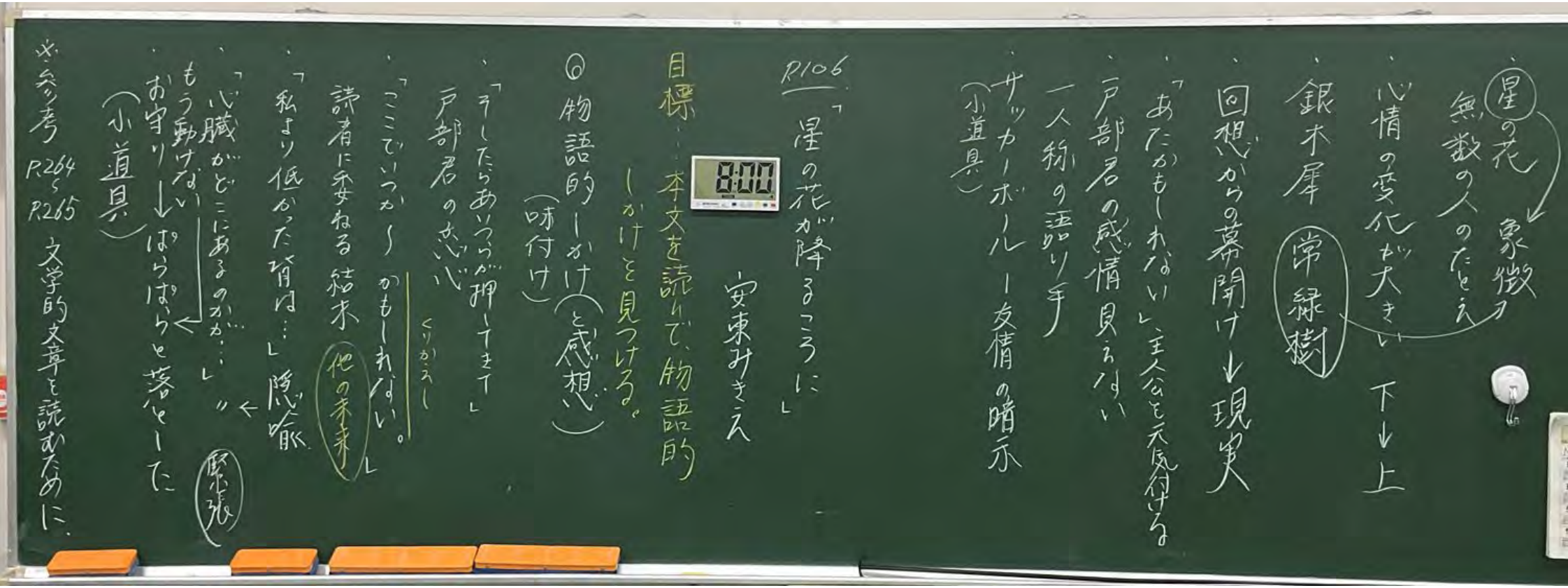
５　本単元までの学習活動の実際　③徹底考察「星の花が降るころに」

単元名	主な学習活動	付けたい力
③徹底考察「星の花が降るころに」 （3時間）	・教科書教材「星の花が降るころに」を読み、物語の構成や表現のしかけ（回想、象徴、道具、キャラクター設定、伏線など）を分析、考察する。	・事象を表す語句の量を増す（(1)ウ） ・場面と場面を結び付け、解釈する（Cウ） ・表現の効果について考える（Cエ）

やりかた　全３時間

«手順»
①教科書教材「星の花が降るころに」を読み、物語の構成や表現のしかけを見つける。
②学習班で分担して、選んだ４つのしかけについて徹底的に考察し、スライドにまとめる。
（一人最低１スライド以上）（引用は「　　」）
③異なる学習班の組み合わせで４人班を組み、班での考察を発表し合う。
④物語のしかけについての考察を書く。

板書の実際（第1時）



板書の順①

板書の順②（上部にスクリーンがあるため）

「星の花が降るころに」を読んで、生徒から出てきた「しかけ」を板書した。結末、回想、小道具、象徴、隠喩、反復法、語り手などが挙げられた。

スライドの実際（第１時）

物語のしかけはこんなところにも！

●回想（タイムスリップ）からの幕開け

●象徴（銀木犀）の存在

※象徴：抽象的な思想・観念・事物などを、具体的な事物によって　　理解しやすい形で表すこと。

●花言葉の意味

●特徴的な結末

●効果的な表現技法

・比喩表現の多用
・倒置法の活用
・対句の活用
・省略法の活用
・オノマトペの活用



●印象的な情景描写（景情一致）

●小道具（花、サッカーボール）の設定

●キャラクター設定

・ネーミングの意味
・名前のない主人公
・戸部君の人物設定と役割
・掃除のおばちゃんの役割

●ちりばめられた伏線

※伏線：後の展開に必要な事柄をあらかじめ仄めかしておくこと

●一人称の語り手

●題名の意味

などなど

生徒のスライドの実際（第3時）

掃除のおばさんの影響（　　）

P.113 L.3
「まさか。どんどん古い葉っぱを落っことして、その代わりに新しい葉っぱを生やすんだよ。そりゃそうさ。でなきゃ　あんた、いくら木だって生きてけないよ。」

掃除をしているおばさんの言ったこの言葉が

P.113 L.13
「ここでいつかまた夏実と花を拾える日が来るかもしれない。それとも違うだれかと拾うかもしれない。あるいはそんなことはもうしないかもしれない。どちらだっていい。大丈夫、きっとなんとかやっていける。」

主人公にとって気持ちに影響している

銀木犀＝常緑樹 → 「ここでいつかまた夏実と花を拾える日が来るかもしれない。」

常緑樹で常に葉っぱがついていることから、常に夏実や戸部君のことを描写している

掃除のおばさんの言葉の「葉っぱ」と主人公が言っている「違う誰か」が重なっている

「まさか。どんどん古い葉っぱを落っことして、その代わりに新しい葉っぱを生やすんだよ。」 → 「それとも違うだれかと拾うかもしれない。あるいはそんなことはもうしないかもしれない。」

木は常緑樹でありながら古い葉を落としたり新しい葉をはやしたりすることで生きていけるということを聞いて、やっていけると思えた

「そりゃそうさ。でなきゃ　あんた、いくら木だって生きてけないよ。」 → 「どちらだっていい。大丈夫、きっとなんとかやっていける。」

Q3. 主人公が名無しの理由（　　）

【主人公の名前が出てこない理由を考察しました】

○主人公が作中で呼ばれている(呼んでいる)名 ▶「お前」「私」

・説1：たまたま説

主人公の名前が出てこないのは偶然であるという説。主人公が作中で親しくしているのは戸部くんだけである。戸部くんが主に主人公に話しかけた場面は2回だが、どちらも戸部くんは主人公の名前は呼ばずに話しかけている(一度目は机にぶつかった流れでそのまま、二度目は「おい」という呼びかけ)。このことから偶然主人公の名前を出すタイミングがなかったのではないかと考えた。ただ、名前を呼ばずに「おい」など、戸部くんが主人公の名前を呼ばなすぎるのが若干不自然だなと感じる。

・説2：読者に感情移入させよう説

主人公の名前をあえて出さないことで読者が感情移入しやすいようにしているという説です。

※次のページに続く

主人公は109ページの10行目で言っているように夏実の他に友達と呼びたい関係の人はいない、内向的な性格のようである。読者の中にはすごく内向的というわけではなくても主人公の行動に共感を覚える場面があるかもしれない。主人公は友達と呼びたい関係の人は夏実のみで、かなり内気な性格であると考えられるため、読者がより感情移入しやすくなるようにあえて主人公を名無しにし(自分の名前として置き換えることもできるように)、物語を楽しんでもらおうとしているのではないかと考えた。ただ、根拠があやふやではある。

・説3：名前よりテーマが重要説

物語のテーマを強調したかったという説。今回のテーマと言うか話の中心は主人公の夏実依存からの成長だと思う。もっというと主人公の精神的な成長という部分を表現したかったのだと思うため、名前を出さないことで普遍的価値？のようなものを強調したかったのではないかと考えた。ただ、別にこれは名前があってもなくても変わらない気がする。

生徒の振り返りの実際（第1時～単元の振り返り）

今日は「星の花が降るころに」の本文から物語的仕掛けを探す授業だった。私ははじめに物語仕掛けと聞いたとき、どのようなものが「仕掛け」になるのかなと疑問に思っていたけれど、共有してみると比喩表現（隠喩とか）から物語を進めていくためのキーセンテンスや大体の結末を考察している人が多かった。また、それだけでなく、自分が読んでて「これはなんで出てきたのか」ということを探している人もいたし、人の名前や花言葉など細かいところにもこだわって考察を強いる人が多かった。最初はこんなに短い物語だけれどそんなにたくさんの仕掛けがあるのかと思っていたけれど、当たり前と思っていた表現も仕掛けだったりしてたくさんあるなと思った。

第1時の振り返り

第2時の振り返り

今回は班ごとに仕掛けをスライドにまとめてみた。私は常緑樹とおばあさんが出てきた意味について、セリフから考察しようと思ったけれど、昨日の共有の時にそのことを話している人がいたので、他の気になっていた表現についてじっくり調べた。最初はきれいな表現だなと思っていたけれど、考えていくと、「銀木犀の小さく縮んで色あせてしまった星」と今回の表現の一つである「陽のかたむきと木陰からできたまたたきくような星」という、反対の表現ができている気がして深く考察できた。自分のお気に入りの本にもきれいな比喩表現だけど実は結構重要な裏付けがありましたみたいなものがあるかも知れないので、読む時にそこを考えてみたい。

今日は仕掛けの共有をした。ネーミングのことについて考えている人が少なかったけれど、最後の[redacted]さんの発表の中で「おばあさんの名前がない」ということが出てきた。これについて私は、おばあさんに名前をつけてしまったら、登場人物感が急に出てきておばあさんが言ったセリフが強調されなくなってしまう、当たり前のセリフみたいになってしまうから、あえて名前を出さないで知らない人みたいにしてセリフを強調させるという意味があったんじゃないかと思う。人は、ずっといっしょにいる人より、初めてあった人からの言葉の方が心に残りやすいから。

第3時の振り返り

この単元では比喩表現などから伝えたいこと、話を進めるための鍵を見つけるということを学べたと思う。最初は比喩表現やここととここの文繋がりそうだなというところを探しているだけだったけれど、みんなと共有していくうちに見つけた比喩表現から結末につながるための訳は隠されていないか、比喩表現からどう心情につなげていくのか、この言葉の意味はなんなのかを探すようになった。そうすると、考える力がどんどん上がっていくと思う。

単元の振り返り

【参考資料】

エイミー・ジョーンズ(2022)「物語のつむぎ方入門ー〈プロット〉をおもしろくする25の方法ー」創元社

エイミー・ジョーンズ(2024)「物語のかたり方入門ー〈ナラティブ〉を魅力的にする25の方法ー」創元社

小川洋子(2007)「物語の役割」ちくまプリマ―新書

大村はま(1983)「大村はま国語教室　第六巻」筑摩書房

ジャンニ・ロダーリ(1978)「ファンタジーの文法」ちくま文庫

ジャンニ・ロダーリ(2011)「羊飼いの指輪ーファンタジーの練習帳ー」光文社文庫

田丸雅智(2020)「たった40分で誰でも必ず小説が書ける超ショートショート講座」WAVE出版

ブルーノ・ムナーリ(2006)「ファンタジア」みすず書房

村上春樹(2016)「職業としての小説家」新潮文庫

【指導者及びアドバイザー】

・指　導　者　：本橋　幸康（埼玉大学教育学部准教授）

・アドバイザー：①苅谷　夏子（大村はま記念国語教育の会　理事長）

②田丸　雅智（小説家・映像出演）

③岡田　博元（お茶の水女子大学附属小学校教諭）